

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2004年12月上旬から12月中旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊量はさらに減少する。
 (2) 漁場: 漁船による操業はない。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 減少を続け、12月上旬以降は断続的になる。
 (2) 漁場: 南偏傾向で推移する。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 12月上旬も減少を続け低位水準となる。
 (2) 漁場: 鹿島灘の漁場は、12月中旬まで持続する。

2. 予測の概要

海 域		12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量		
	動向		
	漁 場		
三陸海域	来遊量	— →	
	動向	断続的	
	漁 場	南偏傾向	
常磐海域	来遊量	→	→
	動向	低位減少	低位水準
	漁 場	鹿島灘	鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(11月中旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

11月上旬は操業船が無かったが、17日夜～19日夜に数隻が操業した。資源量指数から判断した来遊量の水準は、低位水準であった。

(2) 漁場

17日夜は襟裳岬北北東20海里の表面水温10、18日夜は襟裳岬東南東10～南25海里の表面水温10～12、18日夜は襟裳岬南50～60海里の表面水温14～15が漁場であった。17日夜は15トン程度の漁獲量であったが、18日夜・19日夜は最高60～80トン漁獲した。

(3) 魚体

大1-中2-小7～1-1-8～0-2-8と小さいものの割合が高い。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、高位水準となり、11月上旬を上回った。昨年よりかなり高く、平年も上回る水準。日別CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期初めから徐々に増加し、18日夜に来遊量がピークに達した模様。

(2) 漁場

漁場は、尻屋崎から女川沖にかけて広範囲に分散した。

八戸東70～東北東80海里の表面水温12～14では、18日夜・19日夜に漁場となった。漁獲量は最高70トンで、25～40トン程度漁獲する船が多かった。

尻屋崎南15海里～八戸東南東15海里の表面水温15～16では、18日夜・19日夜に漁場となった。漁獲量は最高25～80トン程度。

黒崎東5海里～釜石南東10海里の表面水温14～16では、16日夜以降漁場となった。漁獲量は、最高70～80トンだが、数トン～15トン程度の船が多かった。

大船渡東20海里～女川東北東15海里の表面水温15～19では、12日夜以降、連日漁場となった。漁獲量は、数トン～25トン程度。

(3) 魚体

大1-中3-小6～1-2-7が主体。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、11月上旬を下回り、低位水準となった。平年・昨年を下回る水準。日別CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は徐々に減少した模様。

(2) 漁場

小名浜東北東10海里の表面水温17。13日夜のみ漁場となる。漁獲量数トン～5トン程度。

日立東北東20海里の表面水温18。18日夜のみ漁場となる。漁獲量は数トン～10トン程度。

那珂湊東20海里～犬吠埼東5海里の表面水温17～21では、ほぼ連日漁場となった。最高80トン漁獲した日もあるが、船間差大きく、多くの船は数トン～30トン程度であった。

(3) 魚体

1-3-6が主体で、1-2-7が混じる。漁獲物は、27～28cmモードの中型魚と31cmモードの大型魚。